



平成28年5月 マンスリー レポート

集計企業数 55 社

① 売上高・前年同月比

	全 店			既 存 店	
	売上高	構成比(前月)	前年同月比(前月)	売上高	前年同月比(前月)
総 額	53,617,569 万円	100.0%	102.9% (103.2%)	51,022,064 万円	100.7% (101.9%)
食 料 品	45,274,569 万円	84.4% (85.4%)	103.2% (104.1%)	43,451,577 万円	100.9% (102.3%)
農 産	6,964,509 万円	13.0% (13.1%)	101.4% (103.8%)	6,682,865 万円	99.1% (102.0%)
水 産	4,327,635 万円	8.1% (8.2%)	101.7% (102.3%)	4,154,209 万円	99.5% (100.5%)
畜 産	5,596,981 万円	10.4% (10.4%)	104.1% (102.8%)	5,357,345 万円	101.5% (100.8%)
惣 菜	5,160,428 万円	9.6% (9.8%)	103.5% (104.2%)	4,918,786 万円	100.6% (102.2%)
日配食品	10,137,817 万円	18.9% (19.1%)	103.8% (104.5%)	9,744,518 万円	101.6% (102.9%)
加工食品	13,087,199 万円	24.4% (24.8%)	103.8% (105.0%)	12,593,854 万円	101.8% (103.4%)
生活関連	3,395,820 万円	6.3% (6.4%)	103.1% (101.7%)	3,257,517 万円	101.9% (101.4%)
衣 料 品	1,750,932 万円	3.3% (2.9%)	96.2% (96.3%)	1,636,679 万円	96.8% (98.9%)
そ の 他	3,196,248 万円	6.0% (5.3%)	102.0% (95.7%)	2,676,290 万円	98.3% (97.7%)

② 数 値

全店総売上高	53,617,569 万円	店 舗 数	4,352 店舗
総売場面積	8,648,726.6 m ²	総従業員数	236,155 人

店舗平均月商	12,320.2 万円	平均客単価 (前年同月比)	1,876.7 円 (101.8%)
月間m ² 売上(前月)	6.2 万円 (6.1 万円)	平均店舗面積	1,987.3 m ²
月間坪売上(前月)	20.5 万円 (20.0 万円)	パート比率(前月)	77.9% (77.6%)

注) 総従業員数…パート・アルバイト数は、8時間換算しています

《 全体概況 》

- ・ 5月の天候環境は、上旬は数日の周期で天気が変わったが、中旬以降は晴れた日が多かった。平年より気温は全国的にかなり高かった。しかしながら、高温となった昨年との比較では低めの地域が多かった。降水量は西日本太平洋側では多く、北日本太平洋側、東日本では少なかった
- ・ 昨年と比べ、金曜日、土曜日が1日少ない曜日回りであり、売上へはマイナスの影響を与えた
- ・ 生鮮品の相場状況は、青果物において野菜が昨年より安値で推移しているほか、和牛等の国産牛肉は引き続き高値、豚肉は上昇傾向で推移した

《 商品動向 》

○ 農産

- ・ 野菜は、「ブロッコリー」「アスパラ」「じゃがいも」が売上を伸ばした一方、昨年より相場が安値で推移した「キャベツ」「レタス」「キュウリ」「トマト」等、主要品目の多くで販売価格の低下による売上の減少が見られた
- ・ 国産果実は、「いちご」が好調、「りんご」が不調とのコメントが多かった
- ・ 輸入フルーツは概ね好調で、「バナナ」「オレンジ」「ぶどう」やサラダ需要により「アボカド」が売上を伸ばしている

○ 水産

- ・ 「まぐろ」「サーモン」等の生食関連が好調であった一方、入荷不足や相場高の影響で、「生かつお」「いか」「あさり」が不調であった
- ・ 「もずく」が引き続き売上を伸ばしており、「海藻類」が好調であった

○ 畜産

- ・ 牛肉では国産の相場が依然として高いため、値ごろ感のある価格で販売できる輸入牛を中心に「焼肉用」「ステーキ用」等の訴求を行い、売上を伸ばした結果、牛肉全体では概ね好調であった
- ・ 豚肉は「冷しゃぶ用」が好調であったが、相場上昇傾向で値ごろ感の打ち出しが難しかったこともあり好不調が分かれた
- ・ 鶏肉は引き続き堅調であった一方、加工肉は回復の傾向が見られなかった

○ 惣菜

- ・ 寿司はGW、母の日のカレンダーマーケットの好不調が分かれたが、月度を通しては堅調であったほか、サラダが好調であった
- ・ うどん、冷やし中華等の「涼味麺」が売上を伸ばしたほか、季節感を打ち出した商品が好調であった

○ 日配・加工食品

- ・ 日配では、引き続き、健康への関心の高まりによる「ヨーグルト」の売上伸長が続いている
- ・ 気温環境により日配では「アイスクリーム」「チルド飲料」「涼味関連」の売上減少が見られたほか、加工食品では「乾めん」「めんつゆ」が地域により好不調が分かれた
- ・ テレビ放映の影響や健康、ダイエットへの関心により、日配では「梅干し」、加工食品では「飲用酢」等の酢、「もち麦」等の雑穀類、菓子では「チョコレート」「ナッツ類」が売上を伸ばした

「ゴールデンウィーク、こどもの日の状況」について

- ・ メニュー提案では「焼肉」「寿司」の取り組みが多く、概ね好調であった
- ・ サラダ関連や「ビール」を中心とした酒類が好調であった
- ・ 地域によっては、昨年との天候、気温の差により「涼味関連」が不振であったほか、「柏もち」を中心とした和菓子は好不調が分かれた

○ 「その他カレンダーマーケット（母の日）の状況」について

- ・ サラダやパスタといった洋風メニュー材が好調であった一方、ゴールデンウィーク直後、こどもの日からの日数も短かったため、「寿司」等のごちそうメニューは不振であった
- ・ 予約販売の母の日ギフトは不調とのコメントが多く、「花」が不振、「スイーツ」が好調な傾向であった

以上